

伊江地区の事業の効用に関する説明資料

1. 地区の概要

- (1) 地域 : 沖縄県国頭郡伊江村
- (2) 受益面積 : 668ha
- (3) 事業目的 : 用水改良423ha、畑地かんがい245ha
- (4) 主要工事計画 : 地下ダム 1ヶ所 (新設)
揚水機 2ヶ所 (新設)
用水路 2路線8.3km (新設)
水管管理施設 一式 (新設)
- (5) 国営事業費 : 25,683 百万円
- (6) 工期 : 平成16年度～平成28年度

2. 投資効率の算定

区分	算定式	数值(千円)	備考
総事業費	①	34,728,081	
年総効果額	②	1,904,719	
費用損失額	③	149,919	廃止する施設の残存価値
総合耐用年数	④	43年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0532	総合耐用年数に応じ年総効果額から妥当投資額を算定するための係数 (T=13年)
妥当投資額	⑥=②/⑤-③	35,653,070	
投資効率	⑦=⑥/①	1.02	

3. 年総効果額の総括

区分 効果項目	年総効果額 (千円)	効果の要因
作物生産効果	1,758,960	用水の安定供給による農作物生産量の増減
當農経費節減効果	195,339	用水の安定供給による當農経費の増減
維持管理費節減効果	△ 73,573	施設の新設、廃止による維持管理費の増減
更新効果	11,281	施設の新設による既存施設の機能の維持
公共施設保全効果	10,793	用水路の道路埋設による道路の路盤等の機能更新
水辺環境整備効果	1,919	景観に配慮した施設の設置に伴う周辺環境の保全
計	1,904,719	
費用損失額	149,919	耐用年数が尽きていない廃止施設の残存価値

4. 効果額の算定方法

(1) 作物生産効果

○効果の考え方

用水施設の整備により、用水の安定供給や場条件の改善が図られることによって、作物別作付面積の増減（作付増減効果）と単位当たり収量が増加（単収増加効果）する効果。

○対象作物

さとうきび、葉たばこ、輪菊、さといも、かんしょ、とうがん、にがうり、さやいんげん、マンゴー、チングンサイ、飼料作物

○年効果額算定式

生産増減量×生産物単価×純益率

○年効果額の算定（算定例：さとうきび、葉たばこ）

作物名	作付面積(ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	生産 増減量 (t)	生産物 単価 (千円/t)	増加 粗収益 (千円)	純益率 (%)	年効果額 (千円)
	現況	計画	増減							
さとうきび 夏植	① 20	② 5	③=②-① △15	作付減 (通年畠かん)	④(現況) 9,887	⑤=③×④ △1,483	⑥ 21.89	⑦=⑤×⑥ △32,463	⑧ 1	⑨=⑦×⑧ △325
	① 62	② 8	③=②-① △54	作付減 (期別畠かん)	④(現況) 8,568	⑤=③×④ △4,626	⑥ 21.89	⑦=⑤×⑥ △101,263	⑧ 1	⑨=⑦×⑧ △1,013
	① 45	② 7	③=②-① △38	作付減 (畠かん無し)	④(現況) 6,591	⑤=③×④ △2,505	⑥ 21.89	⑦=⑤×⑥ △54,834	⑧ -	⑨=⑦×⑧ -
			8	单収増 (期別畠かん)	④(増) 1,319	⑤=②×④ 105	⑥ 21.89	⑦=⑤×⑥ 2,298	⑧ 80	⑨=⑦×⑧ 1,839
			7	单収増 (畠かん無し)	④(増) 3,296	⑤=②×④ 231	⑥ 21.89	⑦=⑤×⑥ 5,057	⑧ 80	⑨=⑦×⑧ 4,046
				計						4,547
	① 174	② 236	③=②-① 62	作付増 (計画)	④(計画) 172	⑤=③×④ 107	⑥ 1,892	⑦=⑤×⑥ 202,444	⑧ 18	⑨=⑦×⑧ 36,441
葉たばこ			70	单収増 (畠かん)	④(増) 13	⑤=②×④ 9	⑥ 1,892	⑦=⑤×⑥ 17,028	⑧ 83	⑨=⑦×⑧ 14,133
				計						50,574
総計										1,758,960

※主な作物を事例として示す。その他の効果も含めた詳細については「伊江地区の事業の効用に関する詳細」を参照

- ・作付面積 : 受益面積の変動分を、国営伊江土地改良事業計画書の作物別面積割合をベースにして按分して算定。（予定）
- ・単収 : 国営伊江土地改良事業計画書に基づく。
- ・生産物単価 : 市場の実績等による最近5ヶ年の平均価格に消費者物価指数を反映した価格を用いた。
- ・純益率 : 営農計画で設定した生産費により算定した。

(2) 営農経費節減効果

○効果の考え方

用水の安定供給により、水管理作業の効率化の向上が図られ作物生産に要する経費が節減される効果。

○対象作物

さとうきび、葉たばこ、輪菊、さといも、とうがん、さやいんげん、マンゴー、飼料作物

○年効果額算定式

年効果額 = (現況単位面積当たり営農経費 - 計画単位面積当たり営農経費) × 効果発生面積

○年効果額の算定

算定例：葉たばこ（畑かん省力：散水作業に要する経費の増減）

（防除用水省力：防除用水運搬作業に要する経費の増減）

作物名	ha当たり営農経費				ha当たり 節減額(円) ⑤=(①+③)- (②+④))	効果 発生 面積 (ha) ⑥	年効果額 (千円) ⑦=⑤×⑥			
	労働費(円)		機械等経費(円)							
	現況	計画	現況	計画						
	①	②	③	④						
葉たばこ (かん水運搬)	76,452		169,862		246,314	69	16,996			
葉たばこ (防除用水運搬)	8,787		22,806		31,593	69	2,180			
葉たばこ (散水)	141,188	22,530	33,652	24,258	128,052	69	8,836			
合計							195,339			

※主な作物を事例として示す。その他の効果も含めた詳細については「伊江地区の事業の効用に関する詳細」を参照

- ・現況経費（①, ③）：国営伊江土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正している。
- ・計画経費（②, ④）：国営伊江土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正している。
- ・効果発生面積：受益面積の変動分を、国営伊江土地改良事業計画書の作物別面積割合をベースに按分して算定。（予定）

(3) 維持管理費節減効果

○効果の考え方

土地改良施設の新設により、従前に要していた施設の維持管理費が増減する効果。

○対象施設

ダム、用水路、揚水機等

○効果算定式

現況維持管理費－計画維持管理費

○年効果額の算定

現況維持管理費 (千円)①	計画維持管理費 (千円)②	年効果額(千円) ③=①-②	備 考
23,708	97,281	△ 73,573	

- ・現況維持管理費 (①) 国営伊江土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正している。
- ・計画維持管理費 (②) 国営伊江土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正している。

(4) 更新効果

○効果の考え方

老朽化した土地改良施設を更新することにより、現況施設の機能及び従前の農業生産が維持される効果。

○対象施設

給水所、給水ポンプ、ため池、用水路

○年効果算定式

最経済的事業費 × 還元率

○年効果額の算定（算定例：給水所、給水ポンプ、ため池、用水路）

対象施設	最経済的事業費 (千円) ①	還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備考
マタため池(給水所)	12,221	0.0578	706	耐用年数30年
渡り地ため池(給水ポンプ)	15,781	0.0736	1,161	耐用年数20年
阿良洋ラン組合第1号ため池(ため池)	16,200	0.0418	677	耐用年数80年
川平地区用水路	35,955	0.0505	1,816	耐用年数40年
計			11,281	

※主な施設を事例として示す。その他の効果も含めた詳細については「伊江地区の事業の効用に関する詳細」を参照

- ・最経済的事業費 (①) : 現況施設と同じ機能を有する施設を再建設する場合の事業費。国営伊江土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正している。
- ・還元率 (②) : 各施設の耐用年数と割引率を基に算出される係数。

(5) 公共施設保全効果

○効果の考え方

用水路の新設に伴い、用水路を道路下に埋設することにより、路面及び路盤の耐用年数が増加して付隨的に便益が向上する効果。

○対象施設

道路

○年効果算定式

妥当投資額×当該土地改良事業の総合年数に応じた資本還元率

○年効果額の算定（更新効果）

対象施設	妥当投資額 (千円) ①	当該土地改良 事業の総合年 数に応じた資 本還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備考
用水路 道路埋設 (路盤・路床)	202,871	0.0532	10,793	耐用年数40年

- ・妥当投資額 (①) : 現況施設と同じ機能を有する施設を再建設する場合の事業費。国営伊江土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正している。
- ・還元率 (②) : 各施設の耐用年数と割引率を基に算出される係数。

(6) 水辺環境整備効果

○効果の考え方

畑かん施設等の整備に当たり、周辺景観と調和するための工法を付加することによって水辺環境が保全される効果。

○対象施設

ファームポンド（石張工）

○年効果算定式

環境に配慮した機能を付加するために要する追加投資経費×還元率

○年効果額の算定

投資施設名	環境配慮追加 投資額 (千円)①	還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備考
ファームポンド (石張工)	37,993	0.0505	1,919	耐用年数40年

・環境追加投資経費 (①) : 本地区のファームポンド工事の積算書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正している。

・還元率 (②) : 各施設の耐用年数と割引率を基に算出される係数。

(7) 廃用損失額

○考え方

廃止、改修を行う施設のうち、耐用年数が尽きていない施設については、廃止、改修によって施設の有する残存価値が失われる。この価値を廃用損失額（デッドコスト）として算定。

○対象施設

給水所、給水ポンプ、ため池、用水路、道路

○廃用損失額算定式

償却資産額×残存率

○廃用損失額の算定（算定例：給水所、用水路、道路）

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時までの 使用年数②	今後の使用 可能年数③	残存率 ④=③/(②+③)	
マタため池 (給水所)	H14	12,221	14	16	0.53	6,477
川平地区用水路 (用水路)	H6	120,985	22	18	0.45	54,443
用水路 道路埋設 伊江島空港一周線 (路盤・路床)	S53	29,616	38	2	0.05	1,481
合計						149,919

※主な施設を事例として示す。その他の効果も含めた詳細については「伊江地区的事業の効用に関する詳細」を参照

・ 償却資産額(①) : 廃用施設の事業費から廃棄価格（スクラップとしての価格）を差し引いた額・国営伊江土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について示す支出済費用換算係数により補正している。」

4. 評価に使用した資料

【共通】

- ・農林水産省構造改善局計画部（監修）（1988）「[改訂] 解説土地改良の経済効果」大成出版社
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日付け農林水産省農村振興局企画部長通知（平成25年3月26日一部改正）
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数等について（平成26年3月27日付け農村振興局整備部土地改良企画課課長補佐（事業効果班）事務連絡）

【総事業費】

- ・当該事業費及び関連事業費に係る一般に公表されていない諸元については、内閣府沖縄総合事務局伊江農業水利事業所調べ

【効果算定】

- ・沖縄総合事務局（平成18～22年）「沖縄農林水産統計年報」
- ・伊江村（平成18～22年）「伊江村産業まつり」
- ・沖縄県農林水産部（平成18～22年）「沖縄県の園芸・流通」
- ・沖縄中央卸売市場（平成19～23年）「市場年報」
- ・農林水産省（平成18～22年）「農業物価統計」
- ・効果算出に係る一般に公表されていない諸元については、内閣府沖縄総合事務局伊江農業水利事業所調べ

伊江地区の事業の効用に関する詳細（再評価）

1. 投資効率の算定

区分	算定式	数値(千円)	備考
総事業費	①	34,728,081	
年総効果額	②	1,904,719	
廃用損失額	③	149,919	廃止する施設の残存価値
総合耐用年数	④	43年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0532	総合耐用年数に応じ年総効果額から妥当投資額を算定するための係数 (T=13年)
妥当投資額	⑥=②/⑤-③	35,653,070	
投資効率	⑦=⑥/①	1.02	

2. 年総効果額の総括

区分 効果項目	年総効果額 (千円)	効果の要因
作物生産効果	1,758,960	用水の安定供給による農作物生産量の増減
営農経費節減効果	195,339	用水の安定供給による営農経費の増減
維持管理費節減効果	△ 73,573	施設の新設、廃止による維持管理費の増減
更新効果	11,281	施設の新設による既存施設の機能の維持
公共施設保全効果	10,793	用水路の道路埋設による道路の路盤等の機能更新
水辺環境整備効果	1,919	景観に配慮した施設の設置に伴う周辺環境の保全
計	1,904,719	
廃用損失額	149,919	耐用年数が尽きていない廃止施設の残存価値

3. 効果額の算定方法

(1) 作物生産効果

作物名	作付面積(ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	生産 増減量 (t)	生産物 単価 (千円/t)	増加 粗収益 (千円)	純益率 (%)	年効果額 (千円)	
	現 況	計 画	増 減								
さとうきび夏植	①	②	③=②-①	作付減	④(現況)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
	20	5	△15	(通年畑かん)	9,887	△1,483	21.89	△32,463	1	△325	
	①	②	③=②-①	作付減	④(現況)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
	62	8	△54	(期別畑かん)	8,568	△4,626	21.89	△101,263	1	△1,013	
	①	②	③=②-①	作付減	④(現況)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
	45	7	△38	(畑かん無し)	6,591	△2,505	21.89	△54,834	-	-	
				単収増	④(増)	⑤=②×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
			8	(期別畑かん)	1,319	105	21.89	2,298	80	1,839	
			7	単収増	④(増)	⑤=②×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
				(畑かん無し)	3,296	231	21.89	5,057	80	4,046	
				計						4,547	
さとうきび株出き	①	②	③=②-①	作付増	④(計画)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
		10	10		7,470	748	21.89	16,374	35	5,732	
				計						5,732	
畑	①	②	③=②-①	作付増	④(計画)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
	174	236	62		172	107	1,892	202,444	18	36,441	
			70	単収増 (畑かん)	④(増)	⑤=②×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
					13	9	1,892	17,028	83	14,133	
				計						50,574	
輪菊	①	②	③=②-①	作付増	④(計画)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
	61	140	79		46,300	36,577	34	1,243,618	37	460,140	
				計						460,140	
度切(2)	①	②	③=②-①	作付増	④(計画)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
		35	35		46,300	16,205	34	550,970	87	479,344	
				計						479,344	
さといも	①	②	③=②-①	作付増	④(計画)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
		24	65	41		485	199	390	77,610	-	-
			4	単収増 (畑かん)	④(増)	⑤=②×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
					112	4	390	1,560	78	1,217	
				計						1,217	
とうがん	①	②	③=②-①	作付増	④(計画)	⑤=③×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
		39	68	29		2,142	622	137	85,214	-	-
			15	単収増 (畑かん)	④(増)	⑤=②×④	⑥	⑦=⑤×⑥	⑧	⑨=⑦×⑧	
					279	42	137	5,754	71	4,085	
				計						4,085	

作物名	作付面積(ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	生産 増減量 (t)	生産物 単価 (千円/t)	増加 粗収益 (千円)	純益率 (%)	年効果額 (千円)		
	現況	計画	増減									
かんしょ	① 74	② 74	③=②-① 74	作付増 計	④(計画) 2,096	⑤=③×④ 1,552	⑥ 129	⑦=⑤×⑥ 200,208	⑧ 45	⑨=⑦×⑧ 90,093		
にがうり	① 39	② 39	③=②-① 39	作付増 計	④(計画) 3,221	⑤=③×④ 1,255	⑥ 292	⑦=⑤×⑥ 366,460	⑧ 70	⑨=⑦×⑧ 256,523		
イチ （ 施 設 サ ）	① 20	② 20	③=②-① 20	作付増 計	④(計画) 1,338	⑤=③×④ 267	⑥ 270	⑦=⑤×⑥ 72,090	⑧ 57	⑨=⑦×⑧ 41,092		
へに 施 設 う り	① 25	② 25	③=②-① 25	作付増 計	④(計画) 3,221	⑤=③×④ 805	⑥ 298	⑦=⑤×⑥ 239,890	⑧ 33	⑨=⑦×⑧ 79,165		
畑 （ 施 設 げ ん ）	① 13	② 90	③=②-① 77	作付増 計	④(計画) 1,690	⑤=③×④ 1,302	⑥ 604	⑦=⑤×⑥ 786,408	⑧ 22	⑨=⑦×⑧ 173,010		
（ マ 施 設 ）	① 10	② 15	③=②-① 5	作付増 計	④(計画) 1,950	⑤=③×④ 99	⑥ 1,621	⑦=⑤×⑥ 160,479	⑧ 60	⑨=⑦×⑧ 96,287		
飼料作物	① 46	② 52	③=②-① 6	作付増 （畑かん）	④(計画) 14,323	⑤=③×④ 859	⑥ 18.4	⑦=⑤×⑥ 15,806	⑧ 36	⑨=⑦×⑧ 5,690		
	① 65	② 30	③=②-① △35	作付減 （畑かん）	④(現況) 11,936	⑤=③×④ △4,178	⑥ 18.4	⑦=⑤×⑥ △76,875	⑧ -	⑨=⑦×⑧ -		
	単収増 (畑かん)			④(増) 2,387	⑤=②×④ 716	⑥ 18.4	⑦=⑤×⑥ 13,174	⑧ 87	⑨=⑦×⑧ 11,461			
	計									17,151		
総計										1,758,960		

(2) 営農経費節減効果

作物名	ha当たり 営農経費				ha当たり 節減額(円) ⑤=(①+③) -(②+④)	効果 発生 面積 (ha) ⑥	年効果額 (千円) ⑦=⑤×⑥			
	労働費(円)		機械等経費(円)							
	現況	計画	現況	計画						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
葉たばこ (かん水運搬)	76,452		169,862		246,314	69	16,996			
葉たばこ (防除用水運搬)	8,787		22,806		31,593	69	2,180			
葉たばこ (散水)	141,188	22,530	33,652	24,258	128,052	69	8,836			
とうがん (かん水運搬)	149,674		331,468		481,142	16	7,698			
とうがん (防除用水運搬)	19,301		50,330		69,631	16	1,114			
とうがん (散水)	690,920	17,525	164,680	52,178	785,897	16	12,574			
さといも (かん水運搬)	299,424		663,329		962,753	8	7,702			
さといも (防除用水運搬)	5,482		14,549		20,031	8	160			
さといも (散水)	1,381,840	27,336	329,360	94,606	1,589,258	8	12,714			
飼料作物 (かん水運搬)	271,336		661,756		933,092	26	24,260			
飼料作物 (防除用水運搬)					0	26	0			
飼料作物 (散水)	892,188	40,779	212,652	152,421	911,640	26	23,703			
さとうきび (かん水運搬)	605,306		1,340,812		1,946,118	2	3,892			
さとうきび (防除用水運搬)	5,482		14,549		20,031	2	40			
さとうきび (散水)	2,793,720	61,582	665,880	190,830	3,207,188	2	6,414			
いんげん (かん水運搬)	260,822		682,989		943,811	13	12,270			
いんげん (防除用水運搬)	5,482		14,549		20,031	13	260			
いんげん (散水)	193,007	51,669	92,006	198,310	35,034	13	455			
輪菊 (かん水運搬)	105,365		276,026		381,391	44	16,781			
輪菊 (防除用水運搬)	35,823		93,582		129,405	44	5,694			
輪菊 (散水)	78,104	26,060	37,232	88,865	411	44	18			
マンゴー ^一 (かん水運搬)	821,219		2,150,018		2,971,237	10	29,712			
マンゴー ^一 (防除用水運搬)	16,522		43,252		59,774	10	598			
マンゴー ^一 (散水)	608,310	147,647	289,980	623,835	126,808	10	1,268			
総計							195,339			

(3) 維持管理費節減効果

現況維持管理費 (千円)①	計画維持管理費 (千円)②	年効果額(千円) ③=①-②	備 考
23,708	97,281	△ 73,573	

(4) 更新効果

対象施設	最経済的 事業費 (千円)①	還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備考
寺前1号ため池(給水所)	10,975	0.0578	634	耐用年数30年
ナガラため池(給水所)	8,258	0.0578	477	耐用年数30年
マタため池(給水所)	12,221	0.0578	706	耐用年数30年
ミースイため池(給水所)	1,393	0.0578	81	耐用年数30年
カヤため池(給水所)	7,502	0.0578	434	耐用年数30年
渡り地ため池(給水ポンプ)	15,781	0.0736	1,161	耐用年数20年
ウカバため池(給水ポンプ)	10,804	0.0736	795	耐用年数20年
グスクため池(給水ポンプ)	10,804	0.0736	795	耐用年数20年
ウミカため池(給水ポンプ)	9,422	0.0736	693	耐用年数20年
唐小堀ため池(給水ポンプ)	4,641	0.0736	342	耐用年数20年
真謝ため池(給水ポンプ)	3,055	0.0736	225	耐用年数20年
阿良洋ラン組合第1号ため池	16,200	0.0418	677	耐用年数80年
阿良洋ラン組合第2号ため池	4,500	0.0418	188	耐用年数80年
西崎花卉生産組合(ため池)	11,100	0.0418	464	耐用年数80年
古堅幸一(ため池)	25,668	0.0418	1,073	耐用年数80年
川平地区用水路	35,955	0.0505	1,816	耐用年数40年
西江前地区用水路	10,689	0.0505	540	耐用年数40年
東江前地区用水路	3,565	0.0505	180	耐用年数40年
計			11,281	

(5) 公共施設保全効果

対象施設	妥当投資額 (千円) ①	当該土地改良 事業の総合年 数に応じた資 本還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備考
用水路 道路埋設 (路盤・路床)	202,871	0.0532	10,793	耐用年数40年

(6) 水辺環境整備効果

投資施設名	環境配慮追加 投資額 (千円) ①	還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備考
ファームポンド (石張工)	37,993	0.0505	1,919	耐用年数40年

(7) 廃用損失額

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時までの 使用年数②	今後の使用 可能年数③	残存率 ④=③ /(②+③)	
寺前1号ため池(給水所)	2003年	10,975	13	17	0.57	6,256
ナガラため池(給水所)	1995年	8,258	21	9	0.30	2,477
マタため池(給水所)	2002年	12,221	14	16	0.53	6,477
ミースイため池(給水所)	1997年	1,393	19	11	0.37	515
カヤため池(給水所)	1988年	7,502	28	2	0.07	525
渡り地ため池(給水 ^ボ ソブ [。])	1989年	15,781	27	0	0.00	0
ウカバため池(給水 ^ボ ソブ [。])	1987年	10,804	29	0	0.00	0
グスクため池(給水 ^ボ ソブ [。])	1992年	10,804	24	0	0.00	0
ウミカため池(給水 ^ボ ソブ [。])	1993年	9,422	23	0	0.00	0
唐小堀ため池(給水 ^ボ ソブ [。])	2002年	4,641	14	6	0.30	1,392
真謝ため池(給水 ^ボ ソブ [。])	2001年	3,055	15	5	0.25	764
阿良洋ラン組合第1号ため池	1991年	16,200	25	55	0.69	11,178
阿良洋ラン組合第2号ため池	1991年	4,500	25	55	0.69	3,105
西崎花卉生産組合(ため池)	1994年	11,100	22	58	0.73	8,103
古堅幸一(ため池)	1995年	25,668	21	59	0.74	18,994
川平地区用水路	1994年	120,985	22	18	0.45	54,443
西江前地区用水路	1986年	32,348	30	10	0.25	8,087
東江前地区用水路	1984年	15,755	32	8	0.20	3,151

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時までの 使用年数②	今後の使用 可能年数③	残存率 ④=③ /(②+③)	
村道二級－4(道路)	1981年	2,963	35	5	0.13	385
イヌガ原東西線(道路)	1978年	8,854	38	2	0.05	443
村道二級－8(道路)	1981年	5,926	35	5	0.13	770
アタイタチセ線(道路)	1981年	1,186	35	5	0.13	154
西江上集落道10号(道路)	1981年	12,004	35	5	0.13	1,561
アタイシキミズ線(道路)	1970年	16,055	46	0	0.00	0
マジャグスク線(道路)	1982年	6,152	34	6	0.15	923
並里東西線(道路)	1968年	2,551	48	0	0.00	0
東江上集落道15号(道路)	1985年	1,651	31	9	0.23	380
ブリシテラシ原東西線(道路)	1992年	8,253	24	16	0.40	3,301
ウツ線(道路)	1982年	899	34	6	0.15	135
赤嶺北線(道路)	1988年	1,498	28	12	0.30	449
赤嶺南北線(道路)	1970年	1,897	46	0	0.00	0
後大道(道路)	1982年	599	34	6	0.15	90
西江上集落道8号(道路)	1982年	699	34	6	0.15	105
美石ため池北線(道路)	1978年	3,394	38	2	0.05	170
県道伊江環状線(道路)	1982年	1,298	34	6	0.15	195
サーヤ縦線(道路)	1968年	2,096	48	0	0.00	0
村道(道路)	1982年	1,950	34	6	0.15	293
ウカバため池北線(道路)	1982年	6,983	34	6	0.15	1,047
馬場並里線(道路)	1982年	1,486	34	6	0.15	223
馬場並里線(道路)	1982年	8,267	34	6	0.15	1,240
西江上集落道10号(道路)	1981年	2,421	35	5	0.13	315
伊江島空港一周線(道路)	1978年	29,616	38	2	0.05	1,481
村道(道路)	1982年	3,912	34	6	0.15	587
伊江島空港西東西線(道路)	1982年	2,049	34	6	0.15	307
ゴヘズイモリ線(道路)	1970年	6,799	46	0	0.00	0
米軍補助飛行場南線(道路)	1978年	10,617	38	2	0.05	531
西崎ダム北線(道路)	1982年	3,167	34	6	0.15	475
西崎公民館東縦線(道路)	1978年	1,862	38	2	0.05	93
村道(道路)	1982年	1,197	34	6	0.15	180
東誘導路線(道路)	1982年	4,188	34	6	0.15	628
村道二級－2(道路)	1982年	1,520	34	6	0.15	228
東江上集落道15号(道路)	1985年	3,837	31	9	0.23	883
美石ため池南線(道路)	1978年	1,339	38	2	0.05	67
サーヤ縦線(道路)	1968年	893	48	0	0.00	0
村道(道路)	1982年	401	34	6	0.15	60
東江上集落道15号(道路)	1985年	758	31	9	0.23	174
伊江小学校南線(道路)	1982年	1,264	34	6	0.15	190
村道(道路)	1982年	4,929	34	6	0.15	739
県道伊江空港川平線(道路)	1982年	2,233	34	6	0.15	335
県道伊江環状線(道路)	1982年	713	34	6	0.15	107
真謝集落道8号(道路)	1981年	2,317	35	5	0.13	301
具志堅原南北線(道路)	1997年	3,208	19	21	0.53	1,700
西崎タンク北線(道路)	1977年	3,387	39	1	0.03	102
西崎公民館東縦線(道路)	1978年	823	38	2	0.05	41
西崎集落道23号(道路)	1986年	11,517	30	10	0.25	2,879
川平農道線(道路)	1982年	1,234	34	6	0.15	185
合計						149,919